
脳内血ツ水浴場

シャー芯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

脳内血ツ水浴場

【Nコード】

N9413E

【作者名】

シャー芯

【あらすじ】

なんとなく適当に書いた詩。時間に余裕のある方。へ。

ある日、午前3時48分。目が覚める。

起き上がろうと脳が身体に絶対命令した。

すると、身体がとても軽く。

不安になった。

「私は死んでしまったんじゃないか？」

確かめるため、おもむろに、手探りで、先が少し丸くなった鉛筆を2本。

感覚がない両手。

仲良く1本ずつ、握る。

目を見開き、瞬きしないで！

仲良く一緒に突き刺す。

視界は一瞬にして暗く、身体は口を大きく開けて、奇声を発して、両手は額を強く抱え込む。

何だろう？私は水の中に居る？

溺れて終う。

辺りは、水？赤い水？

真っ暗で解らない。

痛みと呼ばれる単細胞な感覚。

素晴らしいね。

神。痛み。悲しみ。

暗闇しか見詰める事の出来なくなった馬鹿な両眼。

私にお似合いだ。

私の中の神が優しく、醜く微笑んだ。

そんな時だったっけ？

光が見えたんだあ……。

何の生なのだろう？

何故！？

「望まれて産まれてきた」等という法螺を二つ返す？

私の命は必然。

赤の他人の男と女。

ふたりはアダムとイヴ。

っていうのは、少し、笑っちゃっね。

性欲に負けて？魅せられて？

私は産まれた。

「女の子がほしい」

子供は人間の欲の塊。

そんな生き物。そんな世の中。

私は一度も愛せない。

白い淡い光は不思議で、安らかで。

とつても心地よいんだ。

だけど、なんだか寒い。冷たい。

死ぬってこーゆーことお？自問自答で笑っちゃった。気付いたよ。解ったよ。悟ったよ……。

私は生きたんだ。

17年間生きたんだ。

愉しかったよ。

苦しかったよ。

鏡の中。映る、もう独りの自分。

言えなかったよ。

苦しかったよ。

二重人格？馬鹿にされたね？

でも、あの日はエイプリルフルじゃないよねえ。

「貴方は？」

殺人鬼に聞く。

寒くないよ。痛くないよ。

何もない。

泥人形になった私の身体。血ツ水浴場で溺れてる。

両眼には赤い鉛筆。

冷たい頬には血の涙。

奇形だね。お似合いだね。私はこうなるために、産まれてきたんだね！

素敵じゃない？

また、自問自答？

違うよ。

いまのは、私の中の殺人鬼。

真っ白。真っ白。無の世界。

ようやく辿り着いた。

私の生きた真意と証。

神は私を撫でてくれるかな？

おかえり、ていつてくれるかな？

血で出来た羊水。

何だか、こころ、温かく、泣きたい。啼きたい。嘆きたい。

最期の思い出。

心臓の鼓動。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9413e/>

脳内血ツ水浴場

2010年10月11日18時31分発行